



ライアル・アンド・エラーが社会的に容認される世界です。何かがうまくいかなかったとしても、未来永劫その責任を問われる恐れがない。ですから、保護者は応援することを基本的な立場とするべきだろうと思います。ようやく何かを見付け、何かをしたいと思いい、何かで生きていけそうだと思ったときに、保護者の肩の荷が下りる。これは二十歳過ぎまでかかるでしょうから、本当に忍耐のいることです。そういう意味で、あまり気を短くされず、しかし、着実に頑張らせていくというような難しい舵取りをお願いしなければいけません。

**町田**・最近のマスコミ報道を見ていると、家庭教育が出来ないツケを学校教育に押し付けているのではないかと思うことがあります。家庭教育、学校教育、そして地域社会全体で子どもを育てていく、この三つが連帯責任を負うべきです。他人の子どもを叱るという責務を地域全体で負っていくことが必要ではないかと考えています。

**永田**・子どもにとって帰れる場所が家庭であり、どんなことがあっても無条件に愛してくれる人がいる場所こそ家庭であるべきだと思います。忘れてならないのは、子どもが12歳なら親になってもただか12年なんです。社会で色んな仕事をして多少知恵が付いたと思っても、親になると振り出しに戻るところがあります。一から勉強することが沢山あって、やっぱり賢くならねばならないと思います。子

どもに「勉強しろ」と言うなら、保護者である私たちも勉強しなければいけない。社会が大きく変わっている今を生きている子どもと同じように学ぶ姿勢がなければ、子どもを評価し、受け入れることも出来ない。「親であること」は、私たちが人間としてより良い形になるための修練の場なんだろうと思っています。また、保護者の手に余ることを担い、助けてくれる学校に対して、信頼や感謝を寄せることを忘れ、要求するばかりにならないようにしなければ。私たちも愚かであってはいけないし、賢い保護者として成長するために色んな機会が与えられていると認識すべきだと考えています。

## 大人も学びが必要

**町長**・総括すると、保護者も成長しなければということですが、親が学ぶ機会、これはどこに求めるべきでしょうか。

**永田**・自分の確かな意見を持つのは大人にとっても本当に大変なことだ、「沢山の人がそう言っているから多分正しいだろう」と思ってから付いていくことは簡単です。「それはちよつと違うのでは」「私はこう思う」と、今の大人は確固たる自信を持って言うことがほとんど出来なくなっているような気がします。子育てというのは決して一人では出来ないもので、地域の先輩や同世代の方の意見も聞いて、自分の意見をしっかり確立していくことが大事

ではないでしょうか。勉強する機会を出来るだけ外に求め、人の肉声を聞くこと。子育て真っ最中は本当に変えて人から学ぶということもしなければいけないのではないのでしょうか。

**町田**・就職してからも、学び、努力することが必要になってくる。両大使が仰っているように、親も自ら成長しないと子どもに良い背中を見せることは出来ないと思っています。

**佐々木**・社会そのものが変化をしつつありますから、やっぱり20年前30年前のイメージで社会を見ていられると、子どもは戸惑うだろうということが想像できます。自分がどういふふうの世の中と付き合っているかを、保護者は常に考えてみる必要がある。親と子どもは協力し支えあいつつ、しかしどこかで「子どもは子ども、親は親」というのが必要です。政治家二世、三世も時々問題になりましたが、あの方々は実は東京の真ん中しか知らない人たちが多いんですね。そこでしか育っていますから、その親の代と比べると社会的な接触の範囲が狭くなっていく。そのことがその子どもに影響する。ですから社会と保護者の関係、それが子どもとの関係にどういふふうに影響を与えているかという点は大きなポイントだと思っています。

**町長**・子どもの成長は親の成長でもあって、親が成長しない限りは子どもの望ましい成長に繋がらないということかもしれませんね。

## 美郷町の子どもたちへの メッセージ

佐々木…この美郷町で育っている間に、「ああ、自分にとってこれが大事だ」とか「自分はこれが得意」「これで将来生きていきたい」とか、何かそういう種火でもいうものを追い求めてもらいたいですね。追い求めるには、必ず他者の存在があります。よく学生に言ったことは「凄い人を見つけなさい」ということです。「凄いなあ」「到底太刀打ちできないな」という人を探すと、いうのも一つのやりかたです。自分を考えるうえで他の人間は大事な要素で、他人の存在なしに頭の中で自己解析ばかりしていると、空想の世界を出ることができません。「とても敵わないけど、自分もこの人と同じ社会で生きていかなければならないとすれば、どういう作戦でいくか」ということを考える。心の中に灯した種火をだんだん成長させていくために、幾つかの偶然や運、出会いなど色んなものがありますから、それはこれから楽しみにしてもらえればいいのではないかと思っています。

町田…実は自己表現に課題があるのかなあと思いました。自己表現は、どうも東北全般に共通した難点です。自分を売り込むことに関して特に関西の人にはとても敵わない。ところがこれも訓練なので、失敗を恐れず、太いに自己表現をしていったらいいと思っています。また、社会が求める人材というのが

が随分変わってきたと思います。何が必要かと言いますと、知・情・意、この3つのバランスです。知識、これは判断や決断をするときに非常に大事な資質です。また、我々の社会は一人ではやっていけないので、他者と折り合いを付けるために人間関係処理能力も非常に大切になってきます。そして意の力。一つの目標を設定してそこに向かって何が何でも完遂していくという意志の強さ。最近の企業の採用スタンダードは「すぐに役に立つかどうか」になっていて、これは私は大いに問題だと思いますが、しかしながら本来、企業が期待している人材は、今申し上げたように知・情・意のバランスの取れた人材ということだと思います。知育偏重ではなく、人間教育を考えていただきたいと思っています。

永田…私のようなクリエイティブな仕事をやる人間に大切なのは、「子どもっぽさ」です。好奇心とか、何があっても何となく自信を回復して、立ちあがっていく無邪気さみたいなものが非常に重要です。そのためには、自分が子ども時代を過ごしているということをしつかり認識する必要があります。いつのまにか大人になってしまっただけじゃないんです。自分が子どもであるこ

とをしつかり認識するためにどうすればいいか。ノートをつけてほしいと思うんです。これは絶対誰にも見せず、良いことしか書いていないノートです。自分の良い所、ご両親の良い所、先生の良い所、友達の良い所、故郷の良い所、良い所ばかり書くんです。なかなか書けないので何年も続ける。「自分が子どもだなあ」と認識している間はこういうノートを付けると絶対に良いと思うんです。中学2年生くらいまででいいと思いますが、こっそりそういうノートを付けて、大人になったら自分が見る。自分が子どもの時にどんなことを考えていたのか。そうしたら子どもの時には見えなかった自分の良さや、その後に身に付けた自信が必ず見えてきます。私は、美郷町の子どもは日本人の子どもの良さを持っている子が多いなあと実感してきました。この豊かな自然の中で、沢山の人の愛情に包まれて育っているからこそ可愛らしさだろうと思っていますので、その良さを積極的に自分で認識できるように、そこをちょっと指導してくれると良いかもしれませんね。子どもが子どもらしく在れることは素晴らしいことで、美郷町の子どもたちにはそんな風になってほしいと思っています。

美郷大使のみなさんからは大変貴重なご提言をいただき、誠にありがとうございます。ご紹介させていただいた内容は一部ですが、未来ある子どもたちを健やかに育むために大切なことの「気付き」を与えていただきました。町では、いただいたご提言を参考に、よりよい教育環境を目指します。

